

「こおりやまの米」通信



郡山市
イメージキャラクター
「がくとくん」

Vol.3 「田植～本田初期管理」 平成23年5月1日

編集:郡山市
JA 郡山市 (.921-0517)
NOSAI 郡山田村 (.933-3307)
県中農林事務所農業振興普及部 (.935-1310)

発行:郡山市農作物生産対策協議会(郡山市営農推進課 .924-3761)

1. 気象予報 東北地方 1か月予報(4月16日から5月15日まで 平成23年4月15日発表)

<特に注意を要する事項> 期間の前半は、気温が平年よりかなり低くなるおそれがあります。農作物の管理等に注意してください。

<予想される向こう1か月の天候> 天気は数日の周期で変わってでしょう。平年と同様に晴れの日が多い見込みです。週別の気温は、1～2週目は低い見込です。 向こう1か月の日照時間は、平年並の見込です。

2. 田植え

低温時や強風時の移植は植え傷みが生じるので、移植は天気の良い日に行いましょう。

植え付け本数は1株当たり3～4本とし、苗が転ばない程度に浅く植えましょう

【深植えは・・・】 : 下位分げつが発生しにくく、生育が遅れる。

【本数が多いと・・・】 : 肥料切れが早くなる。茎が細くなる。根も酸素不足で細根となります。

○移植から活着までの間に低温が予想される場合は、深水管理をおこないましょう

○弁当肥の施用: 活着が悪そうであれば、田植え2日前頃に1箱当たりチッソ成分1g程度を弁当肥として追肥すると活着がよくなります。【チッソ成分1g/箱の目安】・稚苗用液肥源(15-19-15)約6g/箱

3. いもち病対策「地域全体で葉いもちの発生を抑制する対応を！！」

(1) 箱施用剤の使用

特定の薬剤に耐性のあるいもち病菌が確認されています。同一系統の農薬の連用は避けましょう。

特に、「MBI-D剤」では広範囲で耐性菌が確認されているので、薬剤をローテーションして使用してください。

(例1) 箱施用剤で「デラウス剤」を使用した場合は、穂いもち防除の時に本田散布剤として「コラトップ粒剤5」を使用する。

(例2) 昨年、本田散布剤で「アチーブ粒剤7」を使用した場合、今年は「オリゼメート粒剤」を使用する。

(2) 置き苗の処分

葉いもちの発生源は、補植用の置き苗です。

補植作業は5月末までには完了し、置き苗は水田内に放置しないようにしましょう。

手間もかかるので、補植は欠株が連続している所だけで十分です。

表: 主ないもち病防除剤の種類

| 殺菌剤系統 | | MBI-D 剤 | その他の系統 |
|-------|-------|---------------|-----------------------------------|
| 農薬名 | 箱施用剤 | ウィン剤 デラウス剤 | デジタルコラトップ剤 Dr.オリゼ剤、嵐剤 |
| | 本田散布剤 | アチーブ粒剤7 | オリゼメート粒剤、コラトップ粒剤5、フジワン粒剤、イモチエース粒剤 |

補植用の苗箱にも、箱施用剤の散布を忘れずに！



4. 雑草防除「除草剤は遅れずに散布する」

(1) 初中期一発剤使用上の注意 (除草剤散布後7日間は落水しないように！)

除草剤の散布時まで、補植は終了させておいてください(除草剤の効果が低下します)。

水口・水尻はしっかり止めて、決して除草剤が流失しないように注意しましょう。畦畔の漏水防止もあらかじめしておいてください。散布時は十分な水深(5cm以上)にすると、土の表面に均一な処理層が形成されます。また、深水により雑草の茎葉から成分を吸収し、十分な除草効果が発揮されます。

(2) 万が一雑草が残ったら・・・

残った雑草の種類によって除草剤を選択し、適期に追加防除しましょう。

ヒエだけが残った場合

クリンチャー1キロ粒剤(ヒエ4葉期まで: 1.0kg/10a散布 または ヒエ5葉期まで: 1.5kg/10a散布)

ヒエ以外の雑草も残った場合

ザーベックスDX1キロ粒剤 等

【注意】 著しい薬害が発生する場合がありますので、30以上の高温が予想される場合は使用しない。

広葉雑草だけが残った場合

バサグラン粒剤 等

「春の農作業事故防止運動展開中」(3/1～5/31)
農機用後部反射材などによる事故予防を。
農作業は無理せず「安全第一」で。
～～～目指せ農作業事故ゼロ～～～



この資料は、平成23年4月19日現在の農薬登録情報に基づいて作成しています。

がんばろう ふくしま！

東北地方太平洋沖地震及び東京電力福島第一原子力発電所の事故に伴う農作物等に関する農業技術情報（第11報）（平成23年4月10日）のQ & Aより一部抜粋

（1）放射性セシウムの性質

Q 1 土壌中の放射性セシウムは農作物へ吸収されますか

A 1 吸収されます。しかし、放射性セシウムは土壌に吸着しやすい性質があり、農作物への吸収割合は時間と共に急激に低下します。牧草の例ではセシウム137が農作物に移行する割合が100日ぐらいで5分の1に低下する報告があります。他の農作物へも同じようなことが期待できます。

Q 2 放射性セシウムの長期的な農作物への吸収はどうですか

A 2 放射性セシウムが土壌へ吸着・固定されると、農作物への吸収割合は著しく小さくなります。

（2）国の「稲の作付に関する考え方」について

Q 3 国は土壌中放射性セシウム濃度についてどのような考えを示しましたか

A 3 4月8日に国が示した「稲の作付に関する考え方」（以下、「考え方」）によって、放射性セシウムの食品衛生法上の暫定規制値（500Bq/kg）以下となる土壌中放射性セシウム濃度の上限値として5,000Bq/kgが示されました。

Q 4 土壌中放射性セシウム濃度の上限値はどのように決められたのですか

A 4 農水省が示した土壌中放射性セシウム濃度の上限値は、厚生労働省が示した食品衛生法上の暫定規制値以下となるためには、いくらになるかを移行係数を使って算出したものです。具体的には、水田における土壌中放射性セシウム濃度の上限値は、穀物の食品衛生法上の暫定規制値：500Bq/kgを基に、玄米への移行係数0.1で割算することにより5,000Bq/kgと算出されます。

（3）その他

Q 5 放射性セシウムの吸収を抑える対策はありますか

A 5 放射性セシウムの農作物への吸収抑制技術としてカリウム肥料や石灰資材の投与や、ナタネなどのセシウム吸収能の高い植物による土壌からの除去技術などが考えられます。これらの技術は過去のチェルノブイリ事故などでも効果が確認されています。